

◆ 「皆既月食観望会」を開催

10月8日に茨城大学理学部の野澤恵研究室では、大学院理工学研究科博士前期課程2年の須藤謙人さんが中心となって、教職員及び学生を対象とした「皆既月食観望会」を開催しました。

今回の皆既月食は日本全国で夕方から始まり、夜にかけて双眼鏡や肉眼でも容易に観望できることから、興味のある教職員には大いに期待されていました。当日は、部分食が始まる15分前には野澤研究室を含めた学生が安全を確保し、望遠鏡やデジタル一眼カメラによる月食の観測を試みるためのセッティングを行っていました。

月の一部が地球の半影に隠れる部分食が始まる18時15分頃から参加者が集まり始め、月のすべてが地球の本影に隠れる皆既食が始まる19時24分頃には約30人の参加者となりました。

今回は屋上で夕方からの観望となるため、足元付近に照明を設置し、屋上出入口での案内など、参加者の危険性の回避と安全性の確保措置を研究室の学生が自主的に協力して行ってくれました。

また、この観望会は、学生の研究観測も兼ねておりました。望遠鏡にカメラを取り付け、月をパソコン上に映し出すことで月が欠けていく様子を確認し、デジタル一眼カメラを使用して一定間隔で継続的に月を撮像することにより、月食特有の色の変化を観測していました。

皆既食時は一時的に雲で月が隠れてしまいましたが、月食が終わる21時30分までの間、参加者は月食の美しさを十分に楽しみ、さらに、月が赤銅色に輝く神秘的な天体現象を教職員と学生がともに観望するという大変有意義な観望会となりました。



観望する教職員と学生たち



赤銅色に輝く皆既食時の月

写真提供：茨城大学理学部 山内大翼